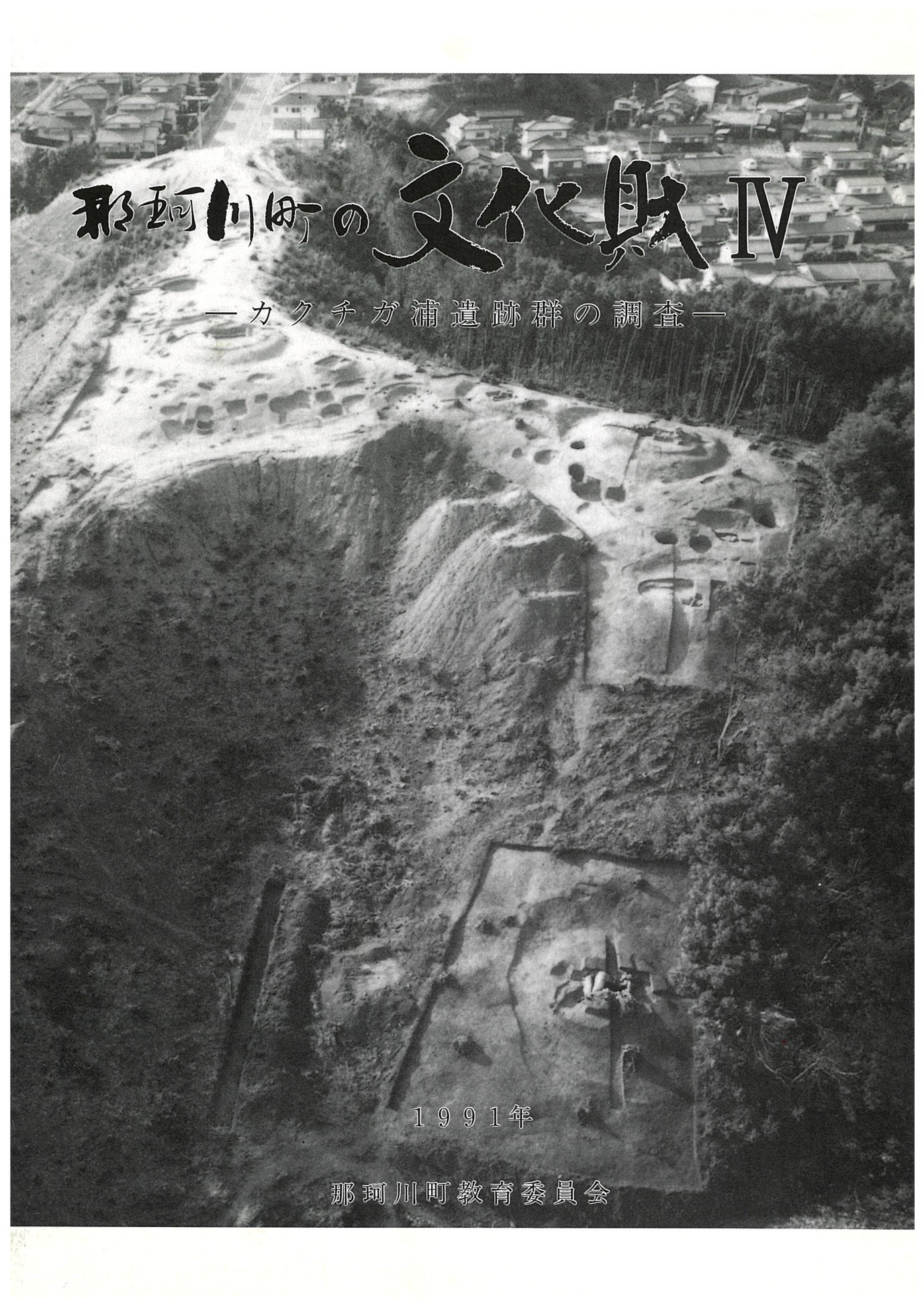




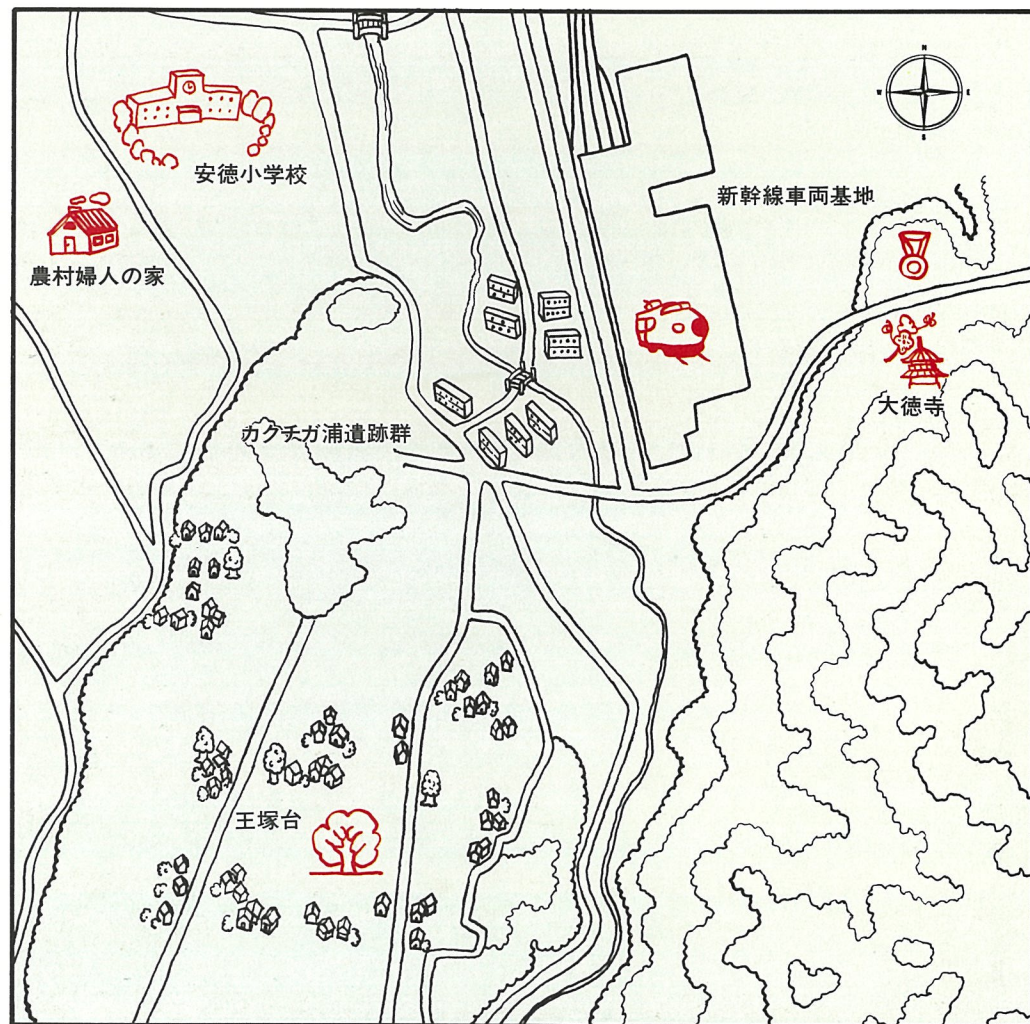
# 那珂川町の文化財Ⅳ

—カクチガ浦遺跡群の調査—

1991年

那珂川町教育委員会

今回この冊子で紹介する遺跡は、王塚台と松木を結ぶ道路の建設に伴って調査したもので、カクチガ浦遺跡群といいます。これは、那珂川町大字松木字カクチガ浦に遺跡の大部分があるため、その小字名を取って遺跡の名称としたものです。このように、遺跡には最初からは名前がなく、多くはその遺跡の所在地を名前にしています。また、遺跡はほとんどの場合一つの時代のものだけではなく、発掘調査を始めると、縄文時代、弥生時代や平安時代、鎌倉時代といった、いろんな時代の遺跡が見つかります。従って、各時代の遺跡が重り合っているという意味で、遺跡群としています。今回の調査では弥生時代から鎌倉時代までの遺跡が見つっていますが、この冊子ではこの遺跡群のうち主要なものである、弥生時代の遺跡（約2000年前）と古墳群（約1500年前）について解説します。



遺跡の場所

## 見つかった遺構 —古代人の生活跡—

カクチガ浦遺跡群は海拔60mほどの丘陵上に造られています。発掘調査の結果、この丘陵上には長い年月にわたって、様々な人々が生活の足跡を残していることが分かりました。ここで、発掘調査の成果に基づいて、この丘陵の移り変わりを見てみましょう。まず、旧石器・縄文時代（10万～1万年前）の生活の跡は確認できませんでしたが、石器が出土しており、このあたりでキャンプしたり、獲物を追いかけていた人々がいたことでしょう。この丘陵に人が住んだのは弥生時代前期（2200年前）だけのようです。住居、土壇、貯蔵穴が見つかりました。その後、500年ほどは木々の茂る山ですが、約1600年前になると、この一帯の豪族の墓が丘陵の先端に造られます。権力者のシンボルである青銅鏡や剣、勾玉、などが供えられていました。続いて、一帯には古墳が多く造られ、約1300年前までは墓所として使われ続けます。やがて、古墳を祭る人もいなくなり、寂れていきますが、奈良時代の後半には狼煙台と思われる、巨大な穴が掘られ、軍事的に使われます。その後、鎌倉時代の墳墓を最後に、この丘陵は自然に戻りますが、現代に至って道路敷となり丘陵そのものが消滅しました。



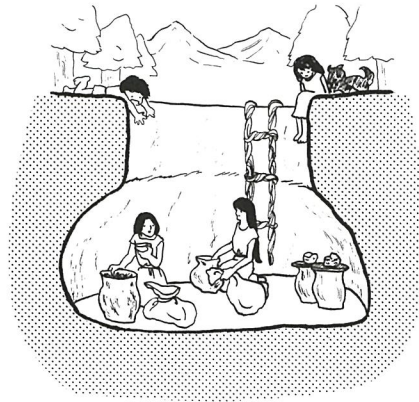
遺跡の全景

## 弥生人の生活跡



貯蔵穴

貯蔵穴は、天然の冷蔵庫です。あまった種麦や木ノ実を壺に入れて保存しました。



想像図



弥生時代の住居

左の写真は、当時の竪穴式と呼ばれる住居の跡です。地面を掘り下げて柱を立てる構造をしています。柱や屋根はすでに腐って失くなってしまい、柱の跡と中央に火をたいた跡だけが残っています。下の図は住居の復元図です。



復元図

この他にも、ゴミを捨てていた大きな穴なども見つかり、昔の生活の様子を知ることができます。



丘陵上の土壙群

# 古墳のいろいろ



6号墳



7号墳



6号墳の石室内

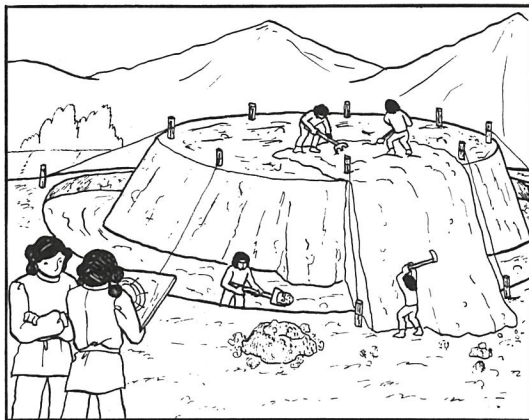


10号墳の調査前

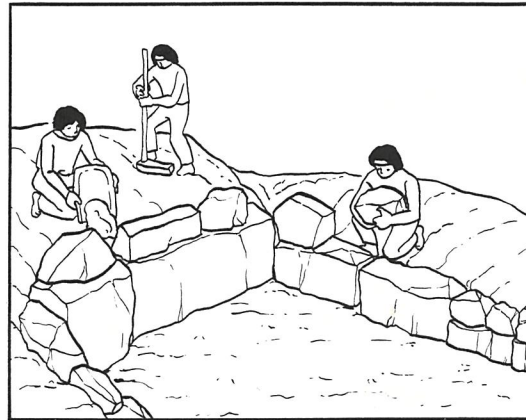


10号墳

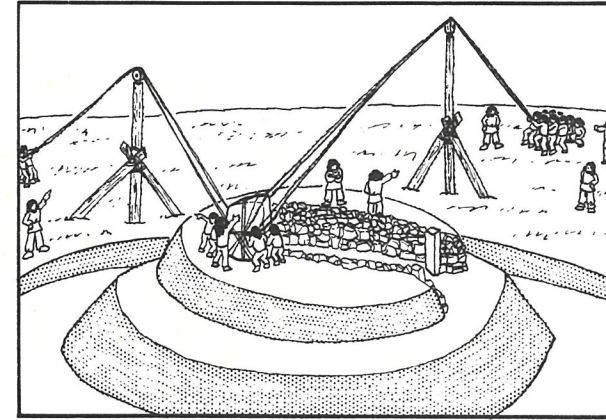
## 古墳を造る順序



1. はじめに設計図をもとに、地面を削り大まかな形を整えます。



2. 石室の石を積みながら回りを土で埋めていきます。



3. 石室ができ上がった後、天井石といわれる大きな石を上にかぶせます。そしてさらに土を盛って古墳全体を形造ります。



4. 最後に石室内部に色を塗ったり飾りつけをします。

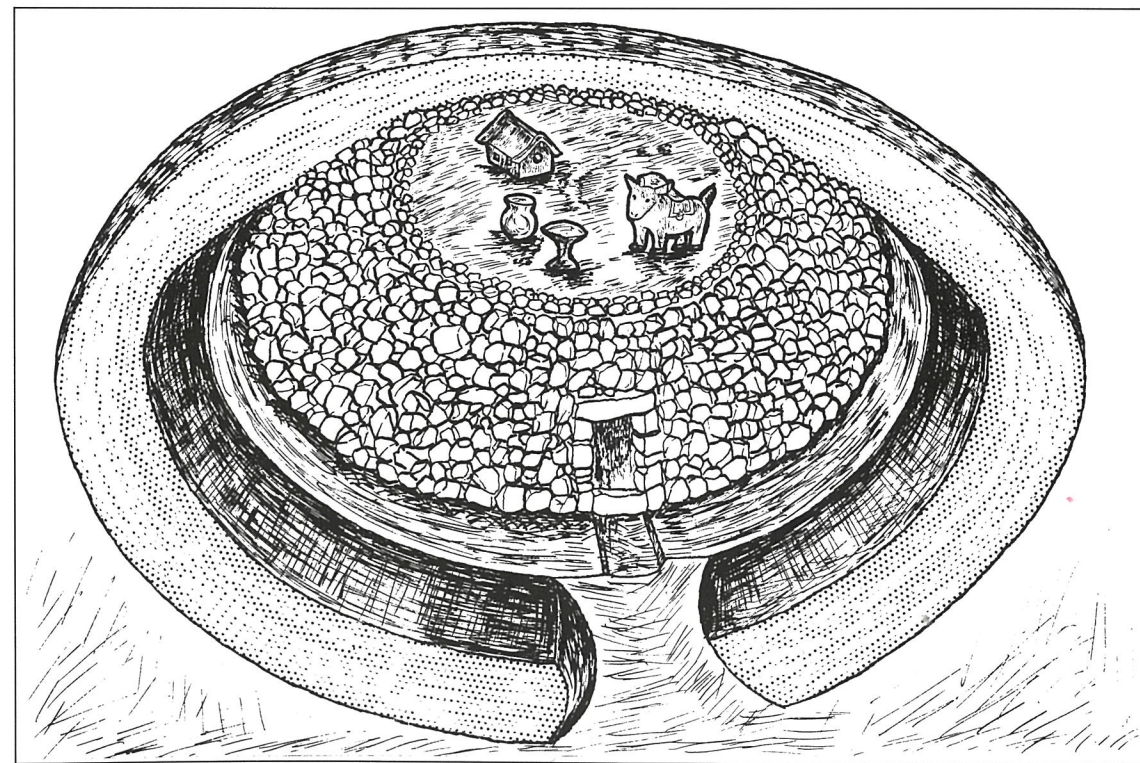


埴輪



土器

これまで見てきた古墳は、いずれも後の世になって、中の副葬品を狙った盗掘などにより、壊されて元々の形を残していませんが、本来は石組の室を造り、それを土で被ったものです。この石室の中に死者を埋葬するわけですが、石室には入口があり、何度でも使えるようになっています。前の時代に造られたエゲ古墳が木棺を直接土に埋め、一人だけの為の古墳であることを考えると、古墳に対する当時の人々の考え方の変化が伺えます。これらの古墳の中で一番大きいのが下図の10号墳です。この古墳も回りを削り取られて本来の形を残していませんが、発掘調査の結果から復元して見たものです。回りに濠（周溝）を巡らし、二段に造られた土盛り（墳丘）の上段は土が流れないように石が葺かれています。頂上は平らで、そこに家や馬の埴輪（写真左上）が置かれ、土器なども供えられて死者を送る祭をしたのでしょう。ところで、これらの古墳はいつ頃造られたのでしょうか。それを教えてくれるのが古墳から出てくる土器です。（写真左下）これらの土器類は他の出土品に比べ、毎日使うので変化が早く、いろんな遺跡から出てくる土器の特徴を、その変化の順に並べると、土器による時代の物差しができます。これに出土した土器を当てはめて、古墳の造られた時期を推定するのです。ちなみに、10号墳は5世紀中頃に造られたと推定しています。



10号墳の全景(復元)

# エゲ古墳



四獣形鏡

出土した土器から、4世紀後半に造られた方墳と考えられます。地面を削って土を盛る2段のピラミッド

古墳の中央には木棺を埋葬した痕跡が残っており、中からは豊富な供え物が発見されました。古墳の規模や素晴らしい出土品からも埋葬された人物は当時の有力な豪族であったことが伺えます。

紀後半に造られた方墳と考え基礎の台を造り、その上に状をしています。

古墳の規模埋葬された人物は当時の有力な豪族であったことが伺えます。



遺物出土状態



鉄剣



鋸

